KAHF　ニュースレター　2005年度

No.5

2006.6.30　発行

連絡先　〒606-8305　京都市左京区吉田河原町15－9　京大会館116号室
財団法人　京都国際文化協会内　　京都ホストファミリー協会（KAHF）

新学年が始まり新しい留学生の申し込みを受け付ける季節になりました。皆様には日頃留学生の世話にまたKAHFの活動にご尽力いただき誠に有難う御座います。

しばらく前からAブロックの春のハイキングや秋の大原でのバーベキューにBブロックのファミリーや留学生が参加させていただくようになり、また祇園祭の船鉾参観にもAブロックの皆さんに参加していただいたり、新春親睦パーティーにもご参加いただくなど、A、B両ブロックのそれぞれの特徴ある行事に留学生やファミリーが相互に参加し、楽しむ機会が増えてきています。大変素晴らしいことと喜んでいます。また今後のKAHFの発展に欠かせない新しいファミリーの加入に役立って欲しいという願いも込めて立派なホームページやニュースレターを立ち上げていただいていますが両ブロックの情報を共有していくことも大事なことでしょう。これからもいろいろな面で両ブロックの交流が深まることを念じています。

今後ともよろしくお願いいたします。

（Bブロック　世話人代表　一瀬）

今年の行事予定

A・B合同ケーキパーティー	春のハイキング	船鉾参観	大原バーベキュー
（平成18年4月15日実施済み）	（平成18年5月28日伏見稲荷大社で実施済み）	（別紙の案内をご覧下さい）	（11月を予定しています。改めて連絡いたします）

ほーむぺーじ

KAHFのホームページの内容も少しずつ充実してきております。レイアウトやページの構成、内容などについても、ご意見・ご提案をいただければ幸いです。また、パソコンの知識をお持ちの方で、作成を手伝っていただける方を募集しております。詳しくは下記までご連絡ください。

・HPアドレス　http://www.geocities.jp/kahfjp/
・KAHFメール kahf@hotmail.co.jp

今回から、AブロックとBブロック共通の「KAHF　ニュースレター」として発行することになりました。発送時期が遅れましたことをお詫びいたします。

★ 2005年4月16日（土） ケーキパーティー（京都大学吉田食堂）

恒例のA・Bブロック合同のケーキパーティー。沢山の新しい留学生が来てくれてKAHFに申し込んでくれました。ファミリー手作りのケーキやクッキーもあっという間に無くなり、ミニバザーも好評でした。

★5月7日（土） 春のハイキング

上賀茂神社から、大田神社、深泥池、円通寺、宝ヶ池（持参したお弁当に舌鼓）を経由して叡山電車の「宝ヶ池駅」までの軽いハイキング。よい天気に恵まれ、おしゃべりも一杯しました。

★7月14、15日 祇園祭船鉾・岩戸山参観

鉾町にお住まいの古川さん、西別府さんのお世話で船鉾と岩戸山を参観しました。A、B両ブロックから70名余りの参加がありました。ファミリーに浴衣を着せてもらってやってきた留学生もあり、祇園祭の雰囲気を楽しんでいました。お世話いただいたお二方に厚く御礼申し上げます。

★ 10月22日（土） 大原バーベキューパーティ

これも恒例の大原「龍池財団大原郊外学舎」（廃校となった小学校）でのバーベキュー。参加は47名と例年より少し少なかったですが、その代わり肉、野菜、焼きそば、炊き込みご飯などたっぷり。お腹が一杯の後は、ゲームに興じました。

★12月17日（土） Bブロック家族会 レストラン「パリの朝市」

平見さん、福井さんのお世話でBブロックの家族会を開きました。普段余りお目にかからないファミリーの皆さんのあいだでもお話がはずみ、楽しいひと時でした。（出席者17名）

★ 2006 年 1 月 15 日（日） B ブロック新春親睦パーティ・バザー 京都市国際交流会館

恒例の新春パーティを開きました。今年は食べ物を購入するなどファミリーには気軽にご参加いただけるような工夫をしました。留学生・ファミリーを交えた懇談、クイズやゲームなどで楽しく盛り上がりました。バザーも盛況でした。Aブロックのファミリーのご参加も得てファミリー約 60 名、留学生約 60 名の参加がありました。ご協力いただいた皆様に感謝いたします。

留学生からの手紙

＜5 年間の日本生活を終えて＞

表　羅英（ピョウ　ナヨン）2006.1

日本に来て5年が経ちました。その間、住所が 3 回、パスポートの在留資格が 3 回変わりました。海外生活は初めてだったのですが、なぜか不安より期待でワクワクしました。そのような気分で出会った京都の第一印象は町がきれいで、静かで、人々がやさしく、歴史と共存する町でした。都会から来た私は人が多くも少なくもない、また、生活に不便もない、まさに理想郷だと思いました。旅行もいっぱい楽しんでお友達もいっぱいできました。しかし、このような楽しい生活ができたのは学業と生活の二つの面で大変お世話になった方々に恵まれていたからです。

まずは、日本語もちゃんと話せなく、慣れない日本生活に戸惑っていた頃、KAHF のケーキパーティで日本語の先生に出会って勉強をし始めた頃、これがきっかけで今までずっとお世話になっている N ファミリーに出会ったのは何よりの出来事でした。それまで、一人暮らしが多くなぜか家族の絆というところが足りないのではないかと疑い始めたところでしたので、N ファミリーとの出会いはこの疑いを完全に溶けてくれたのです。とても暖かく、家族全員が家庭を大事にしている姿が印象的でした。それから現在まで 5 年間もお世話になりました。KAHF の行事はもちろん、毎年お正月や年末、クリスマスなど町中が騒いでいるとき、家族のようにいつも呼んでいただき一緒に過ごしたので、海外での寂しさなどは殆んど感じませんでした。また、忙しい中でも月に 1 回くらいは一緒に食事をするようにし、いつも近況や変わったことなどがないか、元気にしてるのかなど連絡をくださったのです。この暖かいぬくもりを帰国してからも留学生たちに伝えたいと思いました。

この場を借りてもう一度 KAHF の皆様にお礼を言いたいです。ありがとうございました。

****

この 4 月に彼女は待望の赤ちゃんを、そしてご主人は母国韓国の水源で助教授として忙しい毎日を過ごしているようです。

祇園祭　船鉾見学

A-5　西村博香

昨年宵宵宵山7月13日、京都の一番暑い日、Bブロックの古川様のご好意で、船鉾見学を無料でさせて頂きました。

滅多に無いチャンスで、留学生３２人、ファミリー15人合計４７人の参加者でした。みんな気持ちよく見学させて頂きました。

見学途中♪コンコンチキチン・コンチキチン♪のお囃子も入り，一瞬蒸し暑さを忘れるくらい、風情をかもし出して、何だかいい時間を過ごす事ができました。

既に参観をおえた留学生たちもすぐには帰らず，その場で写真を撮ったり，お向かいのお家の屏風を見せてもらったりと，祇園祭りを満喫していたようです。

疲れたけれど、でもあの楽しそうな留学生の顔を思うとやっぱり今年も・・、がんばりましょう！！

パキスタン地震被災者支援写真展を終えて

辻　敦子

3月18日から4日間、ひと・まち交流館でパキスタン地震被災者支援写真展を行いました。KAHFとしてこういった催しを行うのは少なくとも私の知る限りでは初めてでしたし、写真展を開催するといってもノウハウは何も無い状態で、計画はスタートしました。

なぜ写真展を行ったのか、まずその経緯からお話しなければなりません。

昨年の10月8日、パキスタンで大地震が発生したというニュースを、その日の内にニュースで知りました。首都のイスラマバードには、KAHFを通じて知り合った元留学生　ムジャヒド・アラム氏が、帰国して家族と住んでいました。彼の家族とは京都に留学中に子供の出産にも立ち会ったほどの付き合いでしたし、帰国後も時々電話やメールで近況を伝え合ってきましたから、無事でいるかどうか気になったのは当然の事でした。

電話でやっと連絡が取れ、相当な揺れを感じたものの家も家族も無事であった事を知り、とりあえずはほっとしました。それからしばらくして、彼からメールが送られてきました。
首都のイスラマバードよりも、インドとの国境付近の山岳部で被害が大きかった事、あちらこちらで道路が寸断され被災者の状況を確認する事すら難しい事、彼自身も被災した友人一家を自分の家に住まわせている事などを知るにつけ、彼らのために何かしてあげられる事は無いかと考えるようになりました。

これまでKAHFは京都に留学している学生にホストファミリーを紹介して、交流する事を目的としてきました。私自身もKAHFに入会して学生とお付き合いをさせていただくようになってから20年近い年月が経ちます。中国、マレーシア、パキスタン、韓国、台湾と、これまでにホストファミリーとしてお付き合いした留学生は6家族、そのほかにその友人等も含めて、たくさんの学生達と知り合う事が出来ました。

KAHFが設立されてから22年、実に多くの留学生とホストファミリーが交流をしてきました。それぞれの家庭に、かつてお世話した留学生との思い出がたくさん残されている事でしょうし、いまだにお付き合いの続いている方もいらっしゃる事でしょう。こういった付き合いが本当の草の根交流であり、日本を理解してもらうために大切な役割を果たしているとも言えます。こうして培ってきた留学生とのつながりを更に深め、これまでのKAHFの活動の延長線として今回の写真展があったと私は考えます。

被災者を支援する写真展を開きたい旨を元留学生に伝えたところ、あちらこちらの知り合いに声をかけてくれて写真を提供してもらい、また一度ならず本人が被災地に赴いて実際に写真を撮ってきてくれたことで、写真展の開催が実現に向けて動き出しました。KAHFの世話人と一般ファミリーにも声をかけて協力会を発足し、会場探しや写真の展示などに知恵を絞りました。またパキスタンの通信事情の悪さから、どれだけの写真を送ってもらえるか不安があったこともあり、地震発生直後に現地で支援活動を始めたNGOに写真を提供してもらった事が、写真展開催に大きな力となった事も忘れてはなりません。最終的に展示した写真は、NGO提供のものと留学生が送ってくれたものと半々になりました。

写真展の開催中にWBCの決勝トーナメントがあったことや、天候が悪かった事など、私達にとっては不運な事情によって、思ったほど来場者数が伸びませんでしたが、4日間を通じて209,492円の募金を集める事が出来ました。

今回の募金活動に協力してくれたムジャヒド・アラム氏と、神戸の留学生のナビード・アズミ氏が、被災地の一つであるカシミール地方にあるランジャティ村の支援をしています。先日、アズミ氏が神戸で集めた募金の一部で村に女子小学校が再建され、写真が送られてきました。続いて男子小学校、仮設住宅、地震で夫を亡くした女性のための授産施設を建設する予定です。世話人で話し合った結果、KAHFで集めた募金もランジャティ村復興のために使ってもらう事にしました。いずれ村のどこかに『KAHF』の文字が入った建物が建設されるかも知れません。(ちなみに今回再建された女子小学校の建設費用は約20万円でした。)

最後になりましたが、今回の写真展を開催するに当たっては多くの方にご協力いただきました。一人先走ったり転んだりする私を、叱咤激励したり時には諌めたりしてくださった世話人の方々、写真のプリントのために協力してくださった大学の関係者の方やホストファミリーの方、ミーティングに何度も参加してパネルの作成や展示に協力してくださったホストファミリーの方々、写真や品物を提供してくれたり、写真展に来て来場者への説明にあたってくれた留学生達、ファミリーの集いのためにお菓子を作ってくれたり、お茶を出してくださった皆さん、写真展の受付当番にきてくださった方、そして写真を提供してくださったNGO NICCO(社団法人 日本国際民間協力会)の担当の方。更に感謝すべきは写真展に足を運んで募金をしてくださった皆さんです。ここで改めて厚く御礼申し上げます。本当にご協力有難うございました。

写真展の報告をする前に、インドネシアで再び地震が発生しました。ここ数年、立て続けに世界のあちらこちらで大規模な災害が発生している事に不安を感じます。被災者の方々には心から見舞い申上げます。

インドネシアでは、一昨年の地震と津波による被害から未だ完全に復興されたとは言いがたい状況にあったところに、場所は違うものの、また大きな災害に見舞われた事で受けた痛手は大きいと思われます。ファミリーの中で、インドネシアの留学生とお付合いのある方の中には、被害に遭われた方をご存知の方もいらっしゃる事でしょう。何かの形で支援を呼びかけられてはどうでしょうか。私もお手伝いしたいと考えています。

ホンジュラスからの手紙

<昨年度、ホンジュラスで青年海外協力隊として活動している谷垣知佳さん(HFの谷垣昌敬・倶代さんの娘さん)にAブロックの世話人を中心として楽器(鍵盤ハーモニカ30+リコーダー40)を集めて送ったことに対してお礼が2度届きました。>

<最初の手紙>

この度は、ホンジュラスでのボランティア活動にご協力頂きありがとうございました。ご提供いただきました楽器は、無事両親と共にホンジュラスにやってきました。事前にホンジュラスをご紹介できないままでしたので、簡単にホンジュラスの状況と活動の紹介をさせていただきます。

私の任地であるホンジュラス国エルパラソ県ダンリ市には、公立の障害児学校があり、主に知的障害を持つ子ども達40名ほどが学んでいます。この学校は公立でありながら、自治体に充分な支援の余裕がないため、施設のほとんどを合衆国のボランティアが寄付し設立されたもので、年間予算も先生やスタッフの人件費のみであり、子ども達の家庭も決して裕福とは言い難く、常に学習のための道具や材料の不足に悩んでいます。

また、貧しさから学校に通えない子どもたち、いわゆるストリートチルドレンの予備軍といえる子ども達のための施設もあり、ここでも週1回程度音楽の授業をしています。この施設は、建物は自治体、人件費や電気・水道

代などは教育省、子ども達の給食や文房具は個人の寄付で運営しています。ここで学んでいる子ども達は、貧しさのため鉛筆やノート、学校に着てくるためのシャツも買えない状況ですが、その家庭環境や地域社会での扱われ方から情緒的な問題を抱える子が多く、その表現として音楽は非常に役立つと考えています。

以上の2箇所での活動に際し、音楽の授業では歌を歌ったり、リズム演奏をしたりしていますが、どうしても楽器との触れ合いが不足しているため音感を養うことが難しく、また言語障害や情緒的な障害のために「歌う」ということが困難なケースも多くあります。そのため、器楽を取り入れ、個人の表現のほか合奏等集団活動ができればと考えておりました。

楽器の導入に関しては、日本からの寄付として新しい楽器を買うことは不可能ではありませんが、寄付に馴れきっているホンジュラスの自主性を尊重するためにも、またその楽器の貴重さを子どもたちに理解してもらうためにも、寄付でなく交流として導入致したく思い、この度皆様にご協力頂きました。

実際に器楽を取り入れた授業を始めるのは新学期の2月からとなる予定ですが、私の活動先だけではなく、他ボランティアのみなさんとも共有してできるだけ有効に活用できるようにと考えています。本当にありがとうございました。

平成 17 年 10 月3日　谷垣　知佳

＜今度は、つい最近届いた礼状です＞

KAHFの皆様

皆様いかがお過ごしでしょうか。こちらでは雨季が始まりました。茶色の風景が見る間に緑になり、洪水の被害は心配されますが、植物も動物も人もエネルギーに溢れて爽快な季節になりました。

さて、ホンジュラスでは新学期が2月から始まります。今年は大統領選挙の影響で3月からのスタートになりましたが、学校が始まって3ヶ月が経ちました。3月からご寄付いただきました楽器を使い始め、生徒達にもとても好評なので、その様子をお知らせしたいと思います。

以前にご紹介したダンリ市の養護学校では、重度の障害のあるクラスで鍵盤ハーモニカを、軽度のクラスではリコーダーを、聴覚障害のある子ども達には太鼓を使った授業を行いました。どのクラスの生徒も楽器に興味津々で、とても楽しそうに演奏しています。

重度の障害のある子ども達の中には、言語障害を持つ子が多く、口まわりの筋肉が発達していないため、鍵盤ハーモニカを吹く際に空気がこぼれてしまって苦労するのですが、「とにかく弾きたい！」という気持ちが強くて、ほとんど酸欠？というくらい頑張って吹いていました。目標は「キラキラ星」を吹くことで、この曲はホンジュラスでも有名なので、演奏している子どもを見るお母さん達もとても嬉しそうでした。

軽度のクラスでは、簡単な曲を吹くだけでなく、音の長さや休符など楽譜を見ながら吹く、ということも勉強しました。楽譜を使うと、聴覚障害のある子までリコーダーに参加してきて、聞こえる子よりも上手なくらいに吹いていました。また、ホンジュラスでは学校で楽器を吹く機会はほとんど無いため、この養護学校の先生も「私も教えたいから」と、生徒と一緒になってリコーダーを練習しています。

カサ・エスタンシアという貧困層の子ども達のための学校でもリコーダーと鍵盤ハーモニカを取り入れました。1年生～3年生の複合クラスでは、鍵盤ハーモニカを使って授業をしていますが、みんな楽器に興奮してしまって、収拾がつかないことも多く、まだまだこれからというところです。小さい頃から路上に放置されている子ども達は、協調性が著しく欠如しており、「みんなで一緒に吹く」「他の人が弾いている時に静かにする」ということができないばかりか、他の人の邪魔をしたり楽器を壊そうとしたり大変ですが、皆様から数多くの鍵盤ハーモニカのご寄付をいただき、1人1台「自分だけの楽器」を配ることができたので、それぞれ自分の楽器は大切に思っていて、最近は少し落ち着いて弾くことができるようになってきました。

4年生～6年生の複合クラスでは、リコーダーを練習していますが、このクラスの子ども達の「何か学びたい」という意欲はとても強く、いつも驚かされます。充分な学習の機会が与えられてなかったからなのか、一般の学校の生徒と比べても「出来るようになりたい」、「能力を認められたい」という気持ちが感じられ、リコーダーを教えていてもどんどん覚えていき、教え甲斐があります。

私の配属先であるダンリ市文化会館では、7月に文化会館の生徒の発表会、8月にはダンリのお祭りがあり、その場で鍵盤ハーモニカとリコーダーの合奏を発表する予定です。養護学校の生徒は「キラキラ星」「喜びの歌」、エスタンシアの生徒は「エレクトリカルパレード」を発表することを目標にしています。舞台の上で発表し、やり遂げた時の子ども達の誇らしげな顔は、人が成長するために一番必要なことを教えてくれるような気がします。その映像をお届けできる日を楽しみにしています。

梅雨が明ければホンジュラスよりも暑い暑い夏がやってきますが（京都の夏は冷房の無いホンジュラスよりも暑いです）、皆様どうぞご自愛ください。

平成18年6月1日　谷垣　知佳

＜世話人で話し合った結果、KAHF の活動として今回のようにホストファミリーが直接関与している国際活動を支援することも KAHF の一つの活動として進めてゆこうと合意いたしました。今回の谷垣知佳さんの活動をもっと広げるために、鍵盤ハーモニカとリコーダーをもっと集めることに致しました。皆様の手元に不要になった上記二つの楽器がございましたら、谷垣昌敬・倶代ご夫妻の方へお送りいただくかお届けください。

谷垣昌敬・倶代：　〒606-0821 京都市左京区下鴨上川原町5、Tel.&Fax.:075-781-7484＞